

授業改善書

科目名	社会調査論
担当者	春日清孝

授業の概要

私たちは社会という場や関係を生きているが、必ずしもその実態を把握しているわけではない。時には根拠のないイメージや思いこみ、また流布された虚像などを事実と取り違えてしまっていることもよく散見する。自らが生きる場や関係が、実態としてどうなっているのか、それを確認するために有効なのが社会調査である。社会調査とは関係構造としての社会を明らかにすることが第一義だが、それに終始するばかりではない。自らの問題意識に根ざした調査は、調査する側の認識を新たにし、一人ひとりが生きる現実を拓いていく可能性を秘めた創造的な営みでもある。本講義においては以上を主なテーマとして社会調査の概略を学習する。

授業の問題点

講義内容についての問題点はとりわけ存在しない。
ただし、履修登録時以前のガイダンス時に、この講義の特性と履修上の注意（「講義内容を消極的に「受ける」のではなく、積極的に「考える」ことを求める」）ということをも丁寧に説明し、責任主体として受講するように学生に求めることを今後は強調したい。

学生の授業満足度

授業内容に興味関心を持たない学生が多いようだが、現時点での大学生活を基準にするのではなく、特に大学卒業後の生活がどのようになるのかを理解・把握させるような事例を多用し、そのような状況をいかに主体的に生きるかを引き受けられるような講義内容を展開したい。

授業改善の課題と方策

社会調査という講義においては、社会に向き合うことが絶対的な条件となる。そのために、今後自身が一員となるべき社会の問題や話題、事象や制度を取り扱っても、そこに積極的な価値を見いだすことができなければ、向き合うこと自体を先送りしてしまう傾向も生じる。根本的な認識論に踏み込んだ講義形態が必要であろう。

その他

ICT をはじめとしたオンライン環境をもっと活用していくことができれば、社会調査論については学習効率が飛躍的に伸びる可能性もある。インフラとしてそれを使いこなせる環境を期待したい。